第２回県立高等学校改革懇談会（船引・小野）記録

日　時　　令和４年１０月２０日（木）１４時００分～１５時３０分
会　場　　船引高等学校　大会議室
出席者　　別紙一覧参照
傍聴者　　６名

進行
（１）　開会

（２）　県教育長挨拶
　県教育長の大沼でございます。皆さまにおかれましては、日ごろより本県教育に多大なる御理解と御協力をいただき、感謝申し上げます。
　本日は、白石高司田村市長、村上昭正小野町長をはじめ委員の皆様には、御多用中にもかかわらず、本日の改革懇談会へ御出席をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。
　船引高校・小野高校の再編整備につきましては、６月と７月に小野町と田村市でそれぞれにおいて改革懇談会を開催し、船引・小野両校の現状と、統合の必要性や方向性について説明いたしました。
　将来を担う地域の子どもたちにとって、より良い教育環境づくりへの議論を進めてまいりたいと考えます。
　本日は、それぞれの懇談会で頂いた御意見について確認するとともに、統合校の特色化について御意見を頂きたいと思います。
　どうぞ忌憚のない御意見を頂きますようお願い申しあげ、挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（３）　説明

（４）　懇談

＜懇談＞
【菅野崇】(県立高校改革監)
　ここから、懇談に入る。資料に対する質問などがあったら、自由に発言していただきたい。

【村上勝徳】(地元有識者)
　「田村地区や阿武隈高地の子どもたちの学びは、どうなるのか」という部分について、小野町での懇談会の時にも「小野高校に現在通っている、川内村とか、いわき市の山間部とか、そういった所から通っている子どもたちの足はどうなるのか」という質問が出たが、その際、県側の答弁は「今現在リサーチすると、そういった地域からいわきや郡山に通っている生徒が実際にいるので問題ないのではないか」というものであった。私が疑問に思ったのは、家族構成や、その家庭の所得によりやむを得ず子供を近くの学校に通わせているという家庭もある。そういった家庭環境や所得に対し、「もっと、手を差し伸べることはできなかったの

か」と思う。今回も「阿武隈高地などの子どもたちをどうするのか」という課題に対し「学校に魅力があれば、自ずと選ばれてくる」という回答があったが、送迎もしてもらえないような子どもたちに対する支援を県側で考えているのか伺いたい。

【中野正人】（県立高校改革室長）
　そういった支援については、非常に重要な点であると考える。只今の意見については、今後、その必要性も含め考えさせていただきたい。

【二瓶晃一】(小野高校同窓会副会長)
　統合校の在り方について、先程、説明があった。学校の在り方について「地域住民の意見を反映できる仕組みが必要である」ということに対する回答が「現在、制度があるので、それを活かしていく」というものだった。これは私の主観だが、「『今の枠組みで、何かをしよう』ということだけでは、たとえ新しい高校であっても改革などはできず、どんどん魅力がなくなっていくのではないか」と感じる。現在、小野高校にもこういった制度はあるが、私どもがここ５年間くらい県の改革ということで統合の問題があり、いろいろな形で、地元の方々をはじめいろいろな方と話をさせていただいた時に、どうしても地元の方々と学校の運営の在り方というものにギャップがあるということが否めなかった。やはり、ここのところは、新しいビジョンとして地域の人たちに学校の運営そのものに関わっていただくといったような思い切った事をしないと、いろいろな事ができないのではないか。前回の懇談会の記録を読んだが、私としては、船引高校の関係者の皆様から出た御意見は素晴らしいものがあり、概ね賛同できる事が多かったのだが、田村市長が言っていたとおり、学校を運営する中でそれを皆様に受け入れられるかという観点というものは、学校の関係者だけでやっていたのでは、そういう事は絶対に無理ではないか。そういう意味では、もっとドラスティックなもっと新しい形で、学校を運営していく仕組み作りから、新しいビジョンとして考えないと、新しい統合校が魅力あるものに映らない。たとえ、色々な民間の方々のアイデアや、ここに出ているような意見などが出たとしても、それを学校の運営に活かしていく仕組み作りをしていくのに、今の制度では少し難しいのではないかと感じている。小野高校は、学校が船引に移るということで、我々は身を切って統合を進めている。そういう意味では、新しい学校を作るということなら、そこに新しいビジョン、新しい制度を作り、地域の人たち、民間の人たちも学校の運営に携わりながら、地域を支える学校として、そして、その地域に他地域の生徒たちがやって来ることができるような魅力を感じてくれるような、そういう風な仕組み作りが大事だ。ここのところは「既存の施設、既存のスキームなどで取り繕い、皆さんの意見を聞きます」というものではない改革が必要ではないか。

【中野正人】（県立高校改革室長）
　あくまでも、今回説明の中で申し上げたのは、学校評議員会というものは必ず高等学校に設置しないといけないものであり、その人選については、その学校で考えることができるというものになっている。そういった意味では、どういった方々に学校評議員会に入っていただくかということを考えれば、少し答えることもできるのではないかという、一つの例として申し上げたもの。そういった「既存のものではなくて新しいものを」という御意見であったので、先程、担当の方から申し上げたとおり、そういった既存のものも含め、どういった仕組みが良いのか、今後更に検討してまいりたい。

【二瓶晃一】(小野高校同窓会副会長)

そういう話ではない。「誰を選ぶか」ということではなく、「学校の運営そのものを変えていくような制度の仕組みを作らないと、地域の人たちとのギャップは埋まらない」と言っているのだ。それは私どもが、小野高校の魅力化などについて取り組んできた時に、そういった事を非常に痛感してきた。私どもの時代、小野高校は地元の生徒が 3 分の 2 くらい通っていた。しかし、今、地元から小野高校に通う生徒はほんのわずかだ。そんな状況になり、改めて地域の人達と色々な話をしてみれば、学校の制度や仕組みと地域の人達が思っている事にギャップがある。そういった事を考えると、学校の運営そのものに活かしていくような仕組みがないと、地域の人達が「子どもたちが来てくれる事が難しくなってしまうのではないか」と言っているので、「人選をこうした方が良い」とか「何人選べば良いのか」ということではなく、考え方そのものを変えていかないと難しいのではないかという意見を言ったつもりだ。もし、県の制度で変えることができないのであれば、新しい制度を作りやっていかなければ、また同じ事の繰り返しになってしまう。改めて言うが、せっかく新しい学校を作るという事であれば、そこに新しい考え方や新しい運営の仕方を導入すべきだ。そういうものがないと上手くいかないのではないだろうか。この場で、皆さんは、色々な意見やアイデアを出してきたが、それを具現化していかないと魅力ある学校にはならない。我々が親御さんと話をすると、私立高校に魅力を感じコストを掛けながらも、子どもさんを教育している人がいた。そういうところがいわゆる「ライバル」になるわけだ。県立高校なのだから「民間の学校をライバル視してどうするのか」という考え方もあるだろう。しかし、少子化の中で、子どもたちに選んでもらう学校を作るという事であれば、そういったところと競争していくことになるので、考え方を変え、地域の民間の人たちと一緒に学校を運営していくことが必要なのではないかと申し上げた次第だ。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今回、後期実施計画の中で、複数の統合の形を挙げているが、統合後の統合校をどうしていくかということの中で、地域の関わり、その地域の方々の生活や産業など、そういったものを学校の中で探究して見つけていくといったことが大切な視点であると考えている。当然これらは、学校の中だけで身に付けられるものではない。今回統合すれば校舎は船引高校になるが、小野町の地域の皆様に協力していただくことが多々出てくることになる。そういった中で、皆様におきましては色々な形で教えを頂きたい。

【梅原和也】(小野高校 PTA 会長)

資料 13 ページ。統合校の学びについての中で、「統合前に小野高校に入学した生徒は、卒業まで小野高校のカリキュラムで学習していく」という記載があった。小野高校に入学した生徒に関しては、統合後も小野高校で勉強できるようにし、小野高校で卒業できるようにしていただきたい。今、農業、家庭、福祉などの授業を行うためには、小野高校の既存の設備で十分学習できる。それで他の統合校でも実施したように、小野高校に入学した生徒に関しては、最後まで小野高校で学習して小野高校で卒業するということを検討していただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

現在、統合の前期実施計画で、令和 3 年度、令和 4 年度と進めてきた。その中で生徒や学びの実情に合わせて、統合前に入学したそれぞれの高校の校舎で卒業まで学ぶといった「校

舎方式」という方法を取らせていただいている。本日、頂いた御意見を踏まえ、そういった「校舎方式」を取るかどうか今後、検討してまいりたい。

【阿部君江】（地元有識者）

私は、小野高校の支援ということで、町の方で準備してくれた会に所属している。本日、この懇談会が開催されるということで、支援する会の会員に集まっていただき、「自分で伝えたい意見を出すように」という事で意見を聞いてきた。その中で、「阿武隈高地の子どもたちへの通学支援は、何とかならないのか」という意見がだいぶ多くの人から出た。下宿や電車通学ができない家庭において、アクセスが不便でスクールバスがないという所の子どもは、高校の学習が受けられないということに繋がってしまうかもしれない。それならば、スクールバスの事や通学支援を、「全員の子どもたちに」とまではいかなくても考えていただけたら良いのではないかという話が出た。

それから、統合校の方向性についてだが、今までの小野高校の専門学科というのは、内容が分かりづらい。もう少し一般の人にも分かりやすい専門学科の呼び方にするといったことなど、考えても良いのではないかと思う。そうすればこの学校について少し馴染みが増えて、学校の事を考えてみるという人が出てくるのではないか。

今後、統合がこの方式で行われるということだが、その辺は、よく考えていただいた方が良いのではないかと考えている。それから、先程から出ていたが、「自分の時間割を作って、やりたい事をやって、進みたい道を選んで学習できる」という、本当に素晴らしい学校ができると思い期待をしている。そして、この学校を卒業した人が地域を支えて活躍できるような「キャリア指導推進校」を作るのだということもよく分かる。ただ、これを進めるにあたり、偏った学校関係者ばかりでなく、なるべく色々な人に携わってほしい。

それから、既にこういう風な学校があるので、研修するとか、そちらの学校の説明を頂くといったことが必要になってくると思う。私も立派な「キャリア指導推進校」が出来上がるのが本当に楽しみだ。

【中野正人】（県立高校改革室長）

まず、通学の支援についてだが、どういった支援が必要なのか、どういった事ができるのか、今後改めて検討していきたい。それから、専門学科の内容及び呼び方について、もっとわかりやすく示した方が良いのではないかということだが、中学生が高校を選択する段階になった時、自分の進路の分野を「工業」とか「商業」とか「農業」などといった、特定の職業系の分野に決定してしまうというところが、なかなか決めかねるというような生徒も、少なくない状況にある。その点、総合学科においては、１年次の段階で「産業社会と人間」という時間があり、その時間の中で自分の将来についてしっかりと考える時間を取る。そこで考えながら、１年生のうちに自分の進路に合わせた進路希望を固めていきながら、２年次から進路希望に合わせた選択を行っていくことができるということで、より生徒の学習ニーズに答えることができると考えている。御意見を頂いた通り、その特色がしっかりと伝わるような「系列の種類」や「科目の置き方」というものについては、先生方と一緒になって検討し、中学生や保護者の皆様、そして、地域の皆様に「伝わりやすいもの・分かりやすいもの」という視点で、検討させていただきたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

実は、前回、懇談会を行ったときにも、田村市長から「分かりやすさ」という部分は、御指摘いただいたところだ。入学して幅広く選択できるのは、生徒にとっては、利点として考えられると思える一方、分かりにくいという御指摘も受け止めたい。我々とすると実際、入学志願していただくようなお子さんたちに、この統合校に入学すれば、どのような事が学べるのか、どういった選択肢が広がっていくのか、丁寧に説明をしながら、御理解を頂いて進めていきたいと考える。

【飯村新市】(田村市教育委員会教育長)

福島県で初めて総合学科を設けた高校は光南高校だ。あの時の衝撃は本当に凄く、それを物語るように、倍率が 1.7～1.8 倍くらいと、それだけ子どもたちのニーズが高まったのだ。それは何故なのかといえば、色々な要因があったと思うが、中学生の子どもたちは高校に行ったら自分の「好きな事・やってみたい事」ができる学校なのだというイメージで受験し、実際に入ってみたら、思ったほど自由な事をやらせてもらえるわけではなかったが、いまだに県南地区の高校では、倍率が高い学校であることは間違いない。そうなると、こういった「モデル校」があるので、私は、この統合校が「総合学科にする」と言った段階で、「是非、新たな総合学科にしてほしい。既存の総合学科ではなくて、新たな総合学科と言えるような教育内容を考えてほしい」と思った。私が、この間の懇談会で考えたのは、「入学の段階で色々な選択肢があるというのは、子どもたちにとっては、選択肢になっておらず、入学したら、選択した系列の勉強を卒業までやっていくとなり、それは本当に総合学科という意味になるのか」という疑問が生じることになる。それで、インターネットで調べてみたところ、今、大学も入学時に入った学部や学科でなかなかやりきれなく、自分の入った学科と異なる学問の領域で学べるような機会を作っているという情報があるので、新たな総合学科の高校としては、系列で入るけれども、例えば「勉強していく上で、数学Ⅲをやらなくてはいけない」となったとき、「数学Ⅲ」が勉強できるといったようなアイデアがあるのではないかと思う。それから「子供のニーズ」というのは大事だと思うので、検討委員会に子どもを参加させて欲しい。大人の論理でこれからの高校生のニーズにマッチングしたような考えはできるはずがない。学校教育の中では、子どもを巻き込んで子どもの考えを参考にしていくのは、大事な要素だ。これから高校はもちろんのこと、小中学校でも、色々と改革しなければいけない事があり、やはり「子供の考えを取り入れていこう」という風に思っているところである。前回、白石市長から「機械を学べるコースを設けるべきだ」という提案があったが、船引高校でやっている「デュアルコース」をもっと拡充できないかと思っている。例えば、機械の操作は学校で履修するのではなく、企業で実施をする。理論的な学習（座学）は、学校でやるにしても、実習的なものは「デュアル」の体験を超えた学びを地域でやっていく。農業も「体験」ではなく「実習」をしていく。そうすると、地域と学校の繋がりは深くなり、地域の方にも御協力いただかないといけなくなる。そういうビジョンを描ければ、子どもたちを引き付ける何かが出てくるのではないかと考える。

【中野正人】(県立高校改革室長)

今、教育長からの非常に参考になるお話があった。総合学科の在り方、統合校の在り方について、子どもの考えを聞くべきであるという意見、非常にありがたく思っている。実は、他地区の統合校においても、統合校に求める特色などについて、地元の中学生と対象の高校

生が交流しながら意見を出し合うような取組を行っている。そのような機会を、こちらの方でも設けるとともに、統合校の特色化や教育内容について考えていく材料とさせていただきたいと考えている。

また、デュアルシステム制度をいかした専門的な教育を行えるのではないかというお話はまさにその通りであると思って伺った。改めてデュアルシステムについて、学校での座学をしっかり行いながら、現場の実習先の方で実際に仕事をさせていただいて、スキルを高めていくというのがデュアルシステムである。これはドイツ発祥の教育システムだが、総合学科なので、どういった専門教科を置くのが適切なのかということについては、今後の検討によることになるが、そういった学校において専門の教科を選択した生徒が、その実習を外に出て行き、受け入れる企業の方で仕事をさせてもらうというやり方。これは、考えることが可能であると思っている。

【安瀬一夫】（地元有識者）

今、田村市教育長から話があった光南高校だが、私は立ち上げの時に参加した。矢吹高校から光南高校に変わっていく中で、総合学科について誰も知らない状態だった。私は中学校に説明に行ったが、「そんなものは、絶対に失敗するよ」などと色々と言われたが、御存知のように野球部が甲子園に行くような学校になった。光南高校の魅力の一つは、やはり選択科目が多様であったことだ。先程、教育長が言われたように固まった形もあるかもしれないが、系列とは元々、絶対に取らなくてはならないというわけではなく、同じような科目群を示している。例えば、人文系列に入っている子が、テクノアート系列の科目も取ることが可能なのだ。そういったところに子どもたちは魅力を感じたのだと思う。あと、制服をなくすことにし、制服を作るのであれば自由服にするということにした。これについても反対意見が多く出たが、最終的に光南高校の９割の生徒は制服を着ている。それは、「選ばせる」というところが、中学生にとって魅力的に感じたのだと思う。今は県も国もお金がないので、系列の科目の選択肢を多くしてしまうと、人とお金の問題が出てくる。ただ、そこに縛りをかけると、その魅力がなくなってくるので、やはりある程度は多様な科目を整え、子どもたちが元々とっている系列の科目だけではなく、他の科目も選択できるようにしていただきたいというのが、私の要望の一つだ。

もっと後に言おうかと思っていたのだが、統合校のキーワードとしては４つあると思う。「地域」、「連携」、「開放」、そして「創造性・神秘性」である。「地域」というのは、田村市と小野町の連携をどのように進めていくか、地域の歴史をどう掘り起こしていくかということだと思う。「地域」ということで科目を作っている総合学科の高校は全国にたくさんある。秋田県の総合学科の高校には「美術」の授業がある。美術の授業だと地域との結びつきに繋がってこないと思われるだろうが、美術の授業で「町の商店街のポスター」を制作することで、非常にうまくいっている所もある。また、ローカル線の中に高校生が作った地域の魅力を発信する中刷り広告を貼り出して成功している高校もある。そういった地域との関連性を含めた科目を用意していただくとありがたい。もう一つ「連携」となれば、田村市を例に取れば、慶応大学と獨協大学と連携しているので、そういった人的資源も活用する。そこに、先程言った「開放」ということで、地域の人も授業を聞けるといったことをしていただけるとありがたい。また企業とは「デュアルシステム」で連携できると思うし、他地域との連携なら、小野高校が八重山農林高校と姉妹校として連携しているので、そういった繋がりを活かしていただきたい。あと「開放」ということで、例えば、田村市には「地域おこし隊」が

いるが、中には他県から来て活躍している人がいる。そういった方々が、高校生に話ができるような科目、科目というか魅力をあるネーミングでやっていくというのが大切なのではないかと思う。ですから、小野高校と船引高校が今まで培ってきた「特殊教育活動プラスアルファ」の部分を、そういったところから作り上げていただくと非常にありがたいと思う。

【中野正人】（県立高校改革室長）

非常に具体的な提案をしていただき感謝する。今頂いた御意見で科目の在り方、それから、設定する系列の中に、今言っていただいたような科目を入れていくのかというところを参考にさせていただき考えていきたい。いずれにしても「地域」、「連携」については我々も重要視している。今、頂いた御意見を参考に検討を進めていきたい。御意見感謝する。

【白石高司】（田村市長）

今日は、色々と良い意見が出て嬉しく思う。この統合は地域にとっては残念なことであり痛みを伴うものだ。どうかこの統合が「やって良かった」と言われるようなものになるよう、みんなで知恵を出しながら進めていただければと思う。高校の役割は、究極的には「人間を作っていくこと」だと思う。その中で義務教育を終えて最初の高等教育の中で、色々な新しい知識を積み重ねることは確かに大切だと思う。しかし、最終的に学んだ知識や能力を使うのは「人格」だと思う。よって、どこかに背骨を通すように「人格形成」という部分を、先程教育長が言った「ニュー総合学科」といったところで培った人間はどこか違うというものになってほしい。それは、人格形成の中で、礼節というものをしっかりと身に付けてもらいたいのだ。社会に出てからは、「基本的な礼節」や「時間を守る」であるとか「後始末をする」などといったところが、一番初めに問われる部分になってくる。それで「あの学校を卒業した生徒たちは、違うよね」と言われるようになれば、今度は、様々な生徒が望んでいるような「知」とか「能力」とか「技術」を身に付けることにより、世の中から、相当期待される、または嘱望される、そういう人材になってくるのではないかと思う。この統合を契機として統合校がドラスティックに変わるようなことになれば面白いと思う。大変だと思うが期待しているのでよろしくお願いする。

【菅野崇】(県立高校改革監)

統合校に対する御期待をいただいている旨受け止めた。先程から、御指摘あった通り、総合学科が魅力なのではなくて、新しい総合学科として、その総合学科の魅力を皆さんに感じていただき、そして「卒業して良かった」と思っていただけるような学校作りを目指してまいりたい。

【村上昭正】(小野町長)

色々な御意見を聞き、その通りなのだろうと思う。光南高校の例が出たが、光南高校は、野球部を見れば、学法石川高校に行けない子どもたちの受け皿になっているということもあって、統合校とは意味合いが違うような気がする。先程、「統合校を発展的なものにしなければいけない」という意見が出たが、全くその通りだと思う。何故なら小野高校は総合学科の高校として成功していれば、あれだけ生徒数が少なくなることはなかったのではないかという気がしていた。確かに地域性もあるだろうが、少し失敗したのではないかと思っている。県の方では統合校という形で残すということであるが、それはそれで仕方ないと感じている。

それから私は「これが、市と町を跨いだ統合の在り方の弊害だな」と感じていた。というのは、船引高校は、まだ高校が地元に残る。小野高校はなくなる。小野側のこれからの考え方や意見がどんどん失われていくのではないかと思う。それはあってはならない事だが、町としてはなかなか対応できない。上手く連携するにも「市町村の壁」が、どんどんできてくるのではないかということを、今日つくづく感じた次第だ。大変申し訳ないことではあるが、そういった事を話を聞いている中で感じた。先程、小野側の委員からあったように、今、小野高校での切実な問題は、小野高校に来ていた子どもたちの通える学校が、本当になくなるという現実だ。そこを県は考えて欲しい。それから、将来的に「地元の高校がなくなり、田村市の高校に行ってしまう」というように、どんどん変わっていくのではないかと思う。そうなると、我々は、どんどん遠慮がちになる。そういった事を考えると、県はその中をきちんと繋いでほしい。やはり、どこかで、我々は、遠慮がちになってくるところがある。しかし、先程から話のように、魅力ある高校が近くにできれば、小野町の子どもたちも通うようになってくるので、「1 校の選択肢」ということではなく、近くに魅力のある学校を作ってもらい、小野町の子どもたちにとって、選択肢となりうる学校にしていただきたい。ただ、正直言って、なかなか自分からは色々な事が言えないということを痛烈に感じた次第であるので、今後、そういう「つなぎ」を県にはやっていただきたい。それから、第 3 回の改革懇談会が 1 月に決まっているが、統合までにはまだ時間がある。そこで、このような会議はいつまで、そして何回くらいやるのか。そこのところの予定を伺いたい。教育内容については、ある程度両校の教職員で検討することになっているが、我々が入るような懇談会のタイムスケジュールはどうなっているのか、聞かせて欲しい。是非、県が先頭に立ち話を進めて頂きたい。後期計画では小野町だけが市町村から高校がなくなる計画だ。町民は、残念な思いをしているのでそこをお願いしたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今回、後期実施計画の中で唯一、複数の市町村が絡む広域の統合だが、今、小野町長からの言葉は、非常に重く感じている。私たちもこの地域にあって、皆様から選んでいただけるような、そしてどちらかに寄った学校ということではなく、あくまで統合校という姿になるので、今回、船引高校の校舎を使うからといって、決して「田村市の高校」とはならないように、「小野町に、元々、伝統が根付いている統合校なのだ」というところを、しっかり引き継ぎながらやっていきたい。また、それにあたり、地元の皆様、近隣の皆様から色々御支援を頂き、魅力ある統合校へと繋がっていきたい。町長の話の通り、この広域にわたる統合に関しては、県が色々と、皆さんから御意見を頂き、それを調整しながら魅力ある学校に育てていきたいと思っているので、御協力いただきたい。では、これからの進め方について、改革室から説明させていただく。

【中野正人】(県立高校改革室長)

本日、頂いた御意見をもとに、両校で検討いただき、次回、第 3 回の改革懇談会で、検討内容を説明させていただきたい。基本的な学び、系列の在り方、学校教育の基本的な方針など学校の大きな方向性について、より具体的に検討し説明させていただき、そこで、御意見を頂ければ更に検討するが、「その方向性で行きましょう」ということになれば、細かい部分について両校で今後詰めさせていただく段階に入っていくことになると思う。

【村上昭正】(小野町長)
　統合まであと数年あるので、今後、会議を開いていただけば、小野町の意見が反映されるのではないかと思うので、そこのところをお願いしたい。できれば「これで終わり」ということにはせず、細かい事がだいたい決まっていてもよいので、それ以上の事を長期的に話し合っていただければありがたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)
　実務的な部分に入ったり、皆様から頂いた御意見を細かい段階で検討することは、両校の教職員や地域の方々で進めることになるかと思うが、皆様からあらゆる場面を通じ御意見を頂けるように考えていきたい。

【鎌田俊寿】(船引高校 PTA 会長)
　私は、今回の資料の中で 12 ページの「地域と学科の学びについて」というのが、高校のこれからの在り方ということで、小野高校の事が載っているが、これをもう少し地域の人たちにも分かるように、前ページの「地域から選ばれる学校となるのではないか」とか、「地域」という言葉がたくさん出ているので、ここの外枠にここが地域とどういった関わりになるのか。中学生が見て、新しい高校に入ったら、どういった選択ができどういった将来が描かれるのか。就職するためには、ここを出ればこういった企業に勤められる、活躍ができる、地域に残って生活ができるということが、分かるような資料にしていただきたい。私は今年で PTA 会長の役目を終えるが、これを引き継ぐときに、皆さんが分かるような示し方と希望の持てるような示し方ができるような資料を早めに公開していただきたい。また、統合校の学びについてだが、それぞれの高校で入学して卒業していただくのは賛成だが、部活動におけるスポーツ活動や文化活動については、チャンスがあればできるだけ一緒に活動し、思いきり活躍してもらう環境を作っていただきたい。余談だが、今私の息子は高校 3 年生で、一番下の子が小学校 6 年生だ。それで、小学校も来年から統合する。6 年生は「最後の卒業生」になるが、私は新しい高校に希望を持ち、私の子どもがこの高校に行きたいというような魅力ある内容にしていただきたい。皆さんで考えを出し合って良い学校を作っていただければという期待を持ち話をしめたい。

【有賀仁一】(小野町教育委員会教育長)
　先程から、新しい統合校の教育内容についての御意見が、色々と出てきているが、県教委としても「キャリア指導推進校」として、新しい学校を立ち上げるということで、次回まで、教育内容について検討していただけるということだが、町民から私自身が、いくつか聞いてきた中で、「是非とも」ということで、聞いてきたのが、福祉とかビジネスとか農業系列とか、そういった科目を残してほしいという意見だ。魅力ある総合学科ということを考えたとき、田村地区の企業が言うのは「地元の生徒を、是非、採用したいから、そういった子供を育ててほしい」という話だ。そういった意味で、今、船引高校が行っている「デュアルシステム」は、すごく良い方法だ。例えば農業系列を船引高校でやろうとしたとき、施設や設備があるかというと、残念ながら小野高校のようには揃ってない。そこで「デュアルシステム」が非常に有効なのだと思う。そういった事を踏まえ、田村地区の職業リサーチというか「どういう職業をできる生徒が求められているのか」ということを、是非、検討していただき、次回までの教育内容の中に、盛り込んでいただきたい。私が聞いたのは福祉、ビジネス、農

業系列という言い方での話だが、先程、飯村教育長が仰ったように、もっと多くの職種、職業があるので、生徒の選択肢が広がるような内容を、今後、進めていただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)
御意見感謝する。そうした地域の高校に対する役割、人材育成に向けた面での要望を聞くべきだという御意見であったと思う。今後そうした取組を模索し、学校の在り方などを検討させていただきたい。

【二瓶晃一】(小野高校同窓会副会長)
現在、学校の方では、色々な話し合いをされてると思う。実際、学校の中でどのような考え方で話をしているのかお聞きしたいと思う。

【猪狩良一】(船引高校校長)
本校では、この懇談会に向け、ワーキンググループという形で具体的な検討を行い始めている。基本になるものとして、本校は現在、普通科の学校なので、その中で行われている取組を、小野高校の総合学科とどのように結び付けていくかということを慎重に検討しているところだ。しかし、本校の職員全員と小野高校の職員全員が合同に会するのは、なかなか難しいので、今現在それぞれの学校で「どういう統合校であれば、理想的なものができるのか」ということを検討しているところだ。その中で「どのような系列を」という話が、当然出てくることになるが、本校が現在、普通科として行っている「進学」「ビジネス」そして「デュアル」、これを柱にしていくということを考えているわけだが、同時に、小野高校が行っている「福祉」や「農業」、特に農業はこちらに全部持ってくるのは難しいだろうということも踏まえ、どのようなものだったらできるのかということを考えているところだ。もちろん、小野高校と八重山農林高校が姉妹校である件も、できれば、統合校の中でも継続していければ、「沖縄と福島」という絆が継続でき、今まで田村市の皆様の色々なニーズを踏まえながら、高校の生徒たちが「田村市に貢献できる人材育成」という言葉を目標にして、やっているので、これが小野高校の皆さんの御期待に沿えるようになれば、この範囲が、田村市のみならず、田村地域全体に貢献できるような人材育成ということになってくるというように考える。そういう中で、地域のニーズを捉えるなら、「デュアルシステム」を中心にしたものになると思うが、地域に対して貢献できる科目を中心とした総合学科が、できれば良いのではないかと考える。

【佐々木理夫】(小野高校校長)
小野高校の現状は、船引高校の説明であったように、校内で話し合いが進んでいるところである。ただ、ベースになっているところは、「キャリア指導推進校」にしていくというスクールミッションがある中で、どのように教育を展開していくべきなのかということである。先程、飯村委員などから、「系列を自由にまたいで選べることが良いのではないか」という意見が出た。もちろん、そういうのもあると思うが、がっちり農業をやり、農業の力を育てていくというのも、一つの方法なのではないかと思う。どちらかと言えば、この方法は、今の小野高校のやり方に乗じたものだが、一つの系列で、しっかり学び、これからの地域を支えていく人材となっていく自覚を持たせることも大切なのではないかと思う。ただ、今回、この会議で出た話を学校に持ち帰り、学校の中でも考え、船引高校との摺り合わせを行いな

がら、「これまでにないような新しい統合校」を作っていければと思っているので、今後ともお願いしたい。

【佐藤利男】(地元有識者)

令和８年４月に統合校が開校することは決まっているので、系列とか科目は、非常に大事なものだと思っている。その中で、小野高校にある農業系を取り入れるということであれば、早めに系列や科目を決め、それに対応できるような施設や設備を準備し、取り組んでいただきたい。船引高校でやっている「デュアルシステム」も誰でも高校を卒業すると社会に出るかまたは上の学校に進学することになるわけだがいずれは就職する。そういった部分では、地元で勤めてもらうことが最大の願いであるが、これからの時代、そういう事だけではないと思うので、これだけ IT 化、デジタル化されているのだから、新たに企業を興すという部分も加味されなければならないと思うので、その辺を踏まえ、計画に基づいた事が進められるようにお願いしたい。

【三輪幹治】(地元有識者)

今後、この地域を背負っていく人材を育成していただくよう、素晴らしい学校を作っていただきたいと願っている。そのためには、子どもあるいは保護者が魅力を感じるような学校でなければならないと思うが、その子供や保護者が魅力を感じるような科目、あるいは生徒を募集する際、魅力を感じるイメージが湧くような募集要項やポスターの作成を検討していただきたい。

【村上昭正】(小野町長)

先程も申し上げ、しつこい話で恐縮だが、小野町としては船引高校と統合すると私は議会で回答した。それ以降「町長は県の言いなりだ」「保身のためじゃないか」など色々な事を言われた。私自身、そのような気は全くなく、正直なところ、これだけ少子化になれば、どうしようもない事もあるので、切り替えて小野町、その周辺の子どもたちのために統合するのだと話をさせていただいている。だから小野町にとって一番近くの高校になる統合校は、今以上の素晴らしい学校にしていただきたい。そして、小野高校と姉妹校の八重山農林高校の連携については、過去、本当に素晴らしい連携をしてきた。もし、こういった連携を、引き継いでいただけるのであれば、私の方から、石垣市長に話をしたい。是非、小野高校と培ってきた色々な事を、統合校は活かしてほしい。今日は船引の皆さんと初めての会合であったが、小野町としては「苦渋の選択」をしたことを御理解を頂ければと思うので、今後ともよろしくお願い致したい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

改めて本日の内容をまとめると、地域の皆様に運営に関わっていただけるような仕組みの大切さや、あるいは総合学科について今までにないような総合学科の魅力を最大限に活かし、生徒が喜ぶような学校にして欲しいという意見も頂いた。また、小野町長からは「苦渋の選択」という言葉が出たが、市と町を複数またいでの統合ということで地域の皆様において、不安なことがあると思う。そういった事に対して、我々もしっかりと説明を繰り返し、理解をいただくと共に、新しい統合校が、一番近くて魅力のある学校であると分かってもらえるような最大限の取組を行っていきたい。また、「現在、小野高校に通っている生徒たちは、

そのまま同じ校舎で卒業できるようなことは考えられないのか」といった御意見もあった。そういった事を含め、今後、教育庁で検討を重ね、改めて皆様に御報告する形をとっていきたい。

【大沼博文】(県教育長)

本日も、大変、長時間に渡る議論に感謝する。一番最後に、村上町長からお話を頂いた。その前にも、小野町の委員の皆様からは様々な思いを話していただいた。しっかりと私も受け止めさせていただきたいと思う。また、今後の方向性や教育内容について、大変、示唆に富む、建設的な意見をたくさん頂戴したので、そうした事を参考にしながら、今後は、本庁はもとより、両校の教職員、そして同窓会、PTA の皆様と相談しながら、学校の魅力化に向け、検討を進めてまいりたいと思う。何より田村地域の方々と共に学校を作っていきたいという思いを、私は一番強く持っているので、皆様においては、方向作りに向け引き続き御支援、御協力をお願いしたい。

（５）　閉会